

はしがき

著者	今木 秀和
引用	大阪府立大学. 2007, p.1 (関西国際空港が拓く南大阪の可能性 / 堺・南大阪地域学の世界, Vol.6)
URL	http://hdl.handle.net/10466/10388

はしがき

桃山学院大学経営学部教授 今木 秀和

南大阪地域大学コンソーシアムは、平成14年に設立されたが、その設立趣意書に「南大阪地域の大学が、それぞれの特性を活かしながら相互の連携をさらに深め、地域社会や産業界と協力しあって、多様なニーズに対応した教育・研究事業をはじめ、生涯学習環境の充実、大学や地域との間の情報交流などに取り組むことによって、地域全体の教育・学術研究機能の向上を図るとともに、その成果を地域社会に還元し、地域の発展に貢献すること」を目的に掲げている。関空研究会は、このような目的を達成するために南大阪地域大学コンソーシアム内に設けられた研究会である。平成16年度、17年度に行った研究活動の結果は、『関西国際空港と地域振興—観光を中心として—』と題する報告書に纏められている。

関空研究会は、南大阪地域大学コンソーシアム内の研究会の性格を継承しながら、大阪府立大学の現代GP『堺・南大阪地域学』の一翼を担うことによって平成18年度も研究活動を継続して行ってきた。

関空は、南大阪地域にあって、傑出したすばらしい施設である。空港という本来の機能を十全に生かしながら、関空がもつ潜在力を地域の発展に絡めて多角的に研究したいという意識を共有する大学教員が参集して行った研究の成果である。

参加したメンバーの専攻は、さまざまである。都市交通論、農業経済学、交通経済学、経済学（物流）、海外コミュニケーション論、マーケティング論、経営学など、それぞれの分野の専門を生かしながら学際的に関空に取り組んだ結果である。

研究に際して、関西国際空港（株）、堺市、（社）堺観光コンベンション協会、（財）大阪観光コンベンション協会などの諸氏にオブザーバーとして参加していただき、貴重な資料・情報の提供や意見をお寄せいただいた。記して、厚く御礼を申し上げます。